

# 表舞台に銅どうでしよう？

夢・クリエイター 金森 司



こんなくんだりでのスタートですが、決して茶化しているわけではありません。

というのも、今回の試みの主旨は、多種多様な素材に、銅を着込んでみよう！というトライアルであり、『銅色』を日常身近にある物達に着せてみては『銅？』、…と思いついてみました。

もし、ネクタイや帽子が銅板で作られていたら、銅像もドレスアップが可能？？

もし、太古の民(たみ)が銅で出来たサンダルを履いていたとしたら？？

もし、傘が銅板だったら、数年後は綺麗な緑青色に？？

もし、ペンが銅だったら、抗菌ペンの出来上がり？？

もし、銅色が流行色になったら、このロングブーツやフットサルシューズはセレブに大人気？？

もし…？？…？？…といったストリーターの面白さも飽きる事無く沸いてきて、

次々と銅を着込んだ「ニューフェイス」が誕生しました。

製作過程で感じたこと。

個人的には下衣としての、「ベースコート」下塗り」は黒が綺麗。あくまでも、私の感想です。

一方、下衣が白やクリアーだったりすると、赤の発色が強い銅色になります。下衣が黄色だったりすると、オレンジ系の同色に仕上がります。ここでも、

下に着るものによって、こんなに表面の色が変わるものなのかと、下塗りの必然性を改めて感じました。人生の下積みと同じ意味合いでしょうか？

いくら、同じ銅を着込んだとしても、表に出てくる色は、長年培ってきた人それぞれの道筋に似ていて、皆違う色に見えるものなのだ、「気づき」もいただき…そんな、感慨深い一幕もあったりしました。

皆さんは『銅？』思われますか？

それと、製作過程での発見。

金や銀に比べ、ちよびり地味で控えめな印象の『ブロンズカラー』光を放つその姿も、内なる輝きを外にじんわりと滲ませる、渋さを持ち合わせ、

直接の光源より、うつすらとした光に輝くシルエットのほうが高貴で美しいこと。派手すぎず、行き過ぎず。程よい心地よさと落ち着きがそこにあること。などなど…

「なんて、不思議なパワーも持った色なのだろう!!」三十年、色を作り、色と共に歩んできた私の眼にも、銅色は新鮮に映りました。

これからは、『銅だ!』といわんばかりの銅カラーが世の中に出てくる気がします。

ファッション的な要素では、過去にあまり使われていない色味につき、『流行』の目玉になる可能性もありますし、高級感というキーワードと一緒であれば、世界的な傾向にも流れていく可能性が

あります。

銅カラーを持つ『パワー』は無限大の可能性を秘めているのです。

冒頭のタイトル、『表舞台に銅でしよう?』お分かっていただけましたでしょうか？

内なる世界から、思い切つて外の世界に出て行つては『銅』でしよう??

銅色の持ち合わせる、神秘的な意味合いを異種素材にまとうてみては、『銅』でしよう??

古(いにしえ)の昔から、未来に向かい、様々な用途で使われてきた、生活金属『銅』。本来の目的と効用はそのままに、少しだけおしゃれをして表舞



台にでて行つては『銅』でしょう？  
活躍のステージは大きく広く、世界に広がっています。新しい世代に向け、新しい方向性とスピリットを持った銅製品が、世界に出て行く事を願つて止みません。  
と同時に、『こんな俺で銅だ!!』といえるような人が、この銅パワーに刺激され、世に輩出されることも切に願つております。

そうそう…ある雨の日…

ブロンズのキャップをかぶり、ブロンズの眼鏡とネクタイをし、ブロンズのレインブーツとブロンズの傘を装備した男が目の前に現れても驚かないでくださいな！

わたくし金森は、いつか『ブロンズマン』になっている気がしているんですが、

これも、銅パワーでしょうか？だとしたら、思いは成就ですね！

ありがたや。ありがたや。

- 1959年3月19日 北海道・札幌生まれ
- 16歳 初めてはじめたバイトが外壁塗装
- 18歳 大学進学を機にスチール家具の補修塗装のバイト開始
- 22歳 バイトから正社員に就職
- 30歳 バブル期の中、年間1000現場達成独立
- 50歳 開業20年目

- 特殊な素材に対する施工実績と経験が豊富
- デザインと機能を両立させた、「機能美の塗装」を心がけている
- 大使館をはじめ、有名店舗から高級住宅の仕上げや、ヨット、車まで幅広い分野で活躍し、著名人のファンも多い。
- 斬新な発想と技術で不可能を可能に。そして夢を形に!
- 雑誌多数掲載 塗装講師多数 技術顧問 多数



夢・クリエイター  
**金森 司**  
かなもり つかさ

写真撮影 川口宗道